

4月27日、宇宙ロケットの開発に取り組んでいる(株)植松電機(赤平市)専務の植松 努さんを招いて、理科特別授業(津別小学校モデルロケット教室)が行われました。

小学6年生(34人)が理科室で、ロケットキットの組立後、グラウンドで全校児童、津別ライオンズクラブのメンバーが見学を訪れる中、「3・2・1」の秒読みで点火装置を押すと、ロケットは白い煙を噴出して上昇し、グラウンドには大きな歓声が上がりました。

児童は、ロケットの仕組み、火薬の有益な利用方法を学びました。



津別小学校で理科特別授業  
ロケット打ち上げ実験



平成22年度春の叙勲において、共和の野田 章さんは自衛官として危険性の高い公務に従事した社会貢献により、防衛功労で瑞宝双光章を受章されました。

大通の土田一晴さんは長年にわたり学校薬剤師を務め、子どもたちの健康を守り続けた功績により、学校保健功労で瑞宝双光章を受章されました。

5月7日、栄誉ある受章に輝いた二人の方に、佐藤多一町長より顕彰状等が贈呈されました。

春の叙勲・瑞宝双光章を受章  
津別町より顕彰状が贈呈



「ごみゼロ運動の日」を前に  
投げ捨てられた大量のゴミを回収

5月8日、「ごみゼロ運動の日」に合わせて津別町と津別町環境衛生推進協議会(渡邊勝年会長)が主催して、道路クリーン作戦が行われました。

朝早くから多くの町民が集まり、ふれあいパークゴルフ場から美幌町との境界までの町道3号線をバスで数人に分かれ、捨てられていた空き缶や鉄の棒など大量のゴミが拾われました。

今回620kgのゴミが収集され、中には車のタイヤやテレビなどの心無い不当投棄が見られ、参加者の嘆きの声が上がっていました。



まちのわだい

# townics



町民植樹祭を開催！  
木を植え緑豊かな町に

5月9日、緑化や環境意識の高揚を図るために共和の町有地で町民植樹祭が行われ、緑の少年団など95人がカラマツの苗木400本の植樹を行いました。

役場前で行われた開会式では「母の日ということで、母なる地球に感謝の意を込めながら木を植えていきましょう」と挨拶がされました。

この日の天候は曇りで植樹しやすい環境で作業が行われ、作業は1時間程度で終了。記念の標柱を立て、植樹された木がやがて大きな樹木に成長し、緑豊かな町になっていくことを願いました。

5月12日、上里の中山行雄さんの指導林家認定証伝達式が町長室で行われました。

指導林家は「地域の模範となる林業経営等を行っている者」、「人格・見識が優れている者」、「林業後継者の育成指導に理解があり、積極的に指導活動が出来る者」などの要件に適応している人が指導者として認定されます。

中山さんは「今後も先導的な役割を担う指導者として多少でも貢献出来れば」と話してくれました。

その後、オホーツク総合振興局東部森林成瀬室長より認定書とバッジ、腕章が渡されました。



自然で遊ぶ楽しさを実感  
21世紀の森で木登り体験



子供達に自然の楽しさ、大切さを学ぶべく、5月16日の午前と午後21世紀の森キャンプ場でロープを使った木登り体験をするツリーイング体験会(主催津別「元気の森」利用促進実行委員会)が開催されました。

木登り体験には30人の子供が参加し、高さ約20mほどの木に挑戦しました。

今年は去年参加した子供もいたため早いスピードで頂上に着き、途中ツリーモックで休憩するなど、木登りの楽しさを体感し、指導してくれた方々と木に「ありがとうございました。」とお礼の言葉を述べました。

本年の新規事業で、新生児が誕生した家庭に対し祝意を表し、健やかな成長を祈念し、町内の縫製工場で生産された新生児服がプレゼントされる新生児誕生祝品支援事業の第一号は、4月15日に生まれた岡 尚之さんと貴代美さんの長女・芽衣菜ちゃんです。

4月26日、佐藤多一町長よりお母さんの貴代美さんに、新生児服が渡されました。

新生児服が入っている津別で製作された木箱の中には、町長から「未来に沢山の可能性をもって生まれた君を、町みんなが歓迎しています。元気に明るく育って」と直筆の手紙が添えられていました。



きれいなまちづくりに貢献  
津別高校生がゴミ拾い



津別高校で全校生徒145人による市街地全域の清掃ボランティアが5月14日に行われました。

午後からクラスごとに分かれて本岐方面や、市街地周辺道路、国道240号沿いなどの空き缶、ペットボトル、タバコの吸い殻等のゴミを約2時間にわたって拾い集めました。

昭和58年から続けられているこの活動も今年で28回目を迎え、肌寒い天候の中でもボランティア局長を始め、多くの生徒の真面目に拾っている姿が見つけられました。